

発行責任者 都立向丘高等学校同窓会

会長 小川 力洋

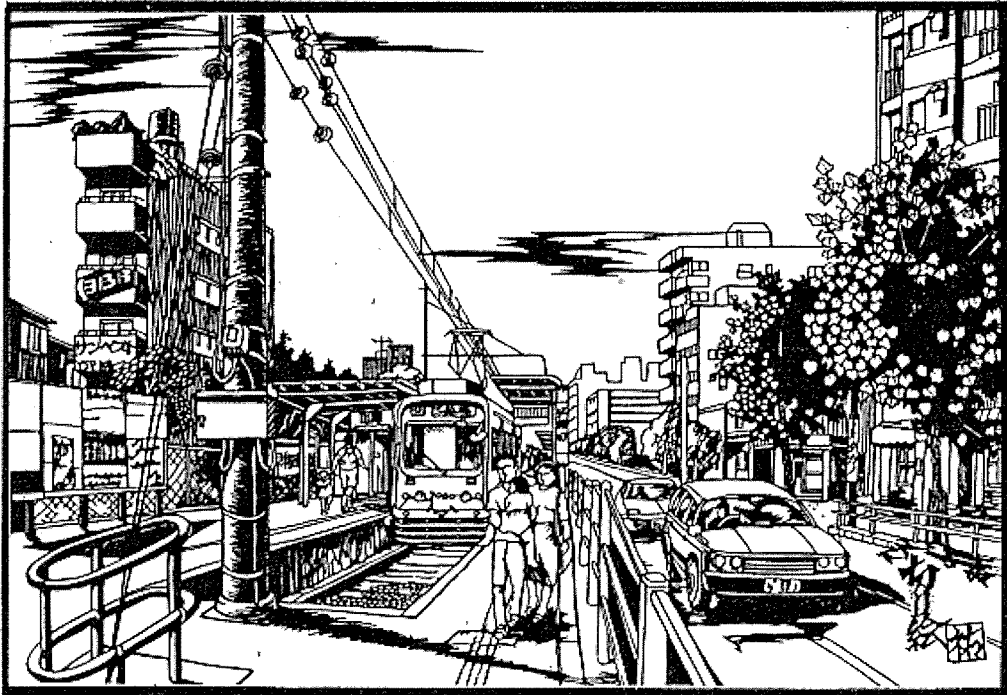
編集 会報委員会

事務局 〒113-0023

東京都文京区向丘1-11-18 向丘高校内

TEL 3811-2022

FAX 3812-4055



都電荒川線 早稲田

切り絵作家 稲葉祐吉 作



同窓会活動のご案内 (やよい会)

1 平成20年4月20日(日)

☆総会 受付13:00 開始13:30~14:15 (会務・会計の報告・審議)

☆記念演奏会 14:30~15:30

出演: 母校吹奏楽部員

指揮: 原田 亮先生

☆懇親会 16:00~18:00

お楽しみ抽選会あり

一般会員参加費: ¥3,000

※新成人を祝つ会

(対象) 平成18年3月卒業会員

※平成18・19・20年3月卒業生

無料御招待

卒業時の各学級幹事がおま

とめの上、会長まで人数を

お知らせ下さい

申込方法 (上記対象外会員)

4月10日(木)までに同封の

用紙にてお振込下さい。

場所 すべて母校6階多目的ホール

2 平成20年5月24日(土)

☆全国大会

やよい会静岡大会

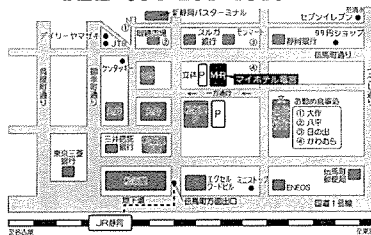
式典 受付12:00 開始12:30

☆懇談会 13:00~15:00

参加費 ¥5,000 (但しH19・

20年卒業生は¥2,500)

場所 静岡市葵区伝馬町10-5
マイホテル竜宮
TEL 054-251-1316



申込 5月12日(月)までに
同封の振替用紙の“その他”
の欄に静岡大会費と記入の
上お振込下さい。

3 平成20年9月6日(土)~7日(日)

☆合同旅行会

行き先 湯西川温泉平家本陣

(平家落人の郷)

TEL 0288-98-0016

フリーダイヤル 0120-582-861

会費 ¥10,000

※詳細は11頁をご覧ください。

4 平成20年9月21日(日)

☆学校訪問 (ホームカミング会)

セミナー演題 聴講無料

~星野ジャパンが握る日本プロ野球の将来~

講師 齊藤柳光氏
15:30~16:30
元日刊スポーツ新聞社
特集記者

元日刊スポーツ新聞社
企画事業本部長

日本大学国際学部、高
千穂商科大学などでニ
ュースメディア論、ス
ポーツジャーナリズム
のゲスト講座を持った

テレビ出演も「プロ野
球ニュース」(フジテレ
ビ)「料理天国」(TBS)

「報道ステーション」
(テレビ朝日)など多数

☆懇親会 16:45~18:30

参加費 ¥2,000

場所 母校B棟4階視聴覚教室

準備の都合上会長宛
予約の上当日払可

総合問合わせ先

〒114-0012

東京都北区田端新町1-27-11

東京都立向丘高等学校同窓会

会長 小川 力洋

TEL 03-3893-9792(代)

FAX 03-3893-9793

《御挨拶》

「創立六十周年記念事業への感謝と報告」 「共に歩んだ過程を顧みて」



同窓会会長

小川 力洋

平成十九年十一月十日(土)本校体育館において記念式典、北区北とびあ十六階「東武サロン」において祝賀会が催されました。会場取り等の準備は一年前から始まりました。

戸谷校長・藤原副校長・記念誌編集委員四名・庶務・記録・会計そして佐藤PTA会長・同窓会関係者等で数回の会議を重ね、当日を迎える迄の諸作業の多さにも音を上げず全員で総力を挙げて携わって頂いたからこそ無事にご来たことと、関係各位に厚く感謝申し上げます。特に招待者選びや発送に当たっては数百通にも及んだ事でしょう。

当日の式典は体育館に万堂千余人が参列し、運営についても、業務分担表で示されていたとおり受付・誘導・会場設営・警備・放送等全く問題なく進行されたようでした。偶然にも同じように創立六十周年記念が同日同時刻に行われており、外部からの参加者が減少してしまつた事が残念に思われます。式典一部は国歌斉唱から始まり、学校長式辞・東京都教育委員会挨拶、続いて公立高等学校長協会会長・PTA佐藤会長に祝辞をいただき、最後に私も述べさせていただきました。その間、終始生徒たちの聴く態度は立派でした。第二部記念講演は、昭和五十年卒業生の作

「自立と共生」



校長

戸谷 賢司

同窓会の皆様のお力添えにより、本年度、創立六十周年記念式典並びに祝賀会を無事終了することができました。小川力洋同窓会会長をはじめ、同窓生の皆様はこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また、忙しい創作活動中にもかかわらず記念講演を快くお引き受けくださった作家の横山秀夫様にもあらためて感謝申し上げます。縁あつて、向丘のめでたき還暦に立ち会えた慶びを皆様とともに分かち合い、さらなる本校の飛躍を期す所存です。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、昨今の若者は変わつたとよく耳にします。産業構造の変化、科学技術の進歩、高度情報化など社会が激しく変化している状況では変化に対応した生き方は、一面では必要となります。しかし他方で、時代や社会がどのように変わろうとも流行に流されない、堅実で賢明な生き方もそれ以上に重要なことではないかと考えています。つまり、日本の社会を担っていく若者を健全な社会の一員として成長させる、このことは、いつの時代でも求められる不易な課題であり、教育の本質もそこにあるのではと思っております。

健全な社会人、具体的には自立して生きて行く力があり、人や社会さらには自然と調和できる豊かな心を持った人ではないかと思えます。こうした成熟した人間の育成は、まさに今求められていて、キーワード風言えば「自立と共生」ということとなります。

「自立と共生」

そして、現在学校はこの「自立と共生」について総力を上げて取り組んでいます。しかし、学校だけでは埒が明きません。そもそも教育は家庭、学校、地域のそれぞれの教育力の合力、したがって「自立と共生」は社会総がかりで取り組むべき課題なのです。私たち大人が立場を超えてこの問題に積極的に関わり、その役割を果たすことが健全な若者を育てることにつながると考えています。

幸い、同窓生の皆様は豊富な人生経験や知恵を備えています。その先輩諸氏の知の財産を学校行事やホームカミングなどあらゆる機会を通じて、生徒に伝えてもらえたらと期待しているところです。職業観、人間関係、社会貢献、自然との共生など題材はなんでも結構です。先輩諸氏による出張授業を是非実現したいと思っております。参加して下さる多くの同窓生諸氏のご連絡をお待ちしています。健全な若者を鍛えるため、ご協力をお願いいたします。

学校だより

「一年を振り返って」



副校長

藤原 成憲

平成十九年四月、杉並総合高等学校から向丘高等学校に転勤してまいりました藤原でございます。同窓会の皆様に、この一年を振り返って一言ご挨拶を申し上げます。

前任校は、創立四年目の都立学校で初めて卒業生を送り出してまいりました。今年度に

創立六十周年という歴史と伝統のある学校へ赴任しまして緊張していました。既に、創立六十周年記念式典の準備委員会が設立されており、同窓会・PTA・教職員・都教育委員会の多くの皆様のご尽力のお陰で、十一月十日(土)の創立六十周年記念式典・記念行事を実施することができました。また、記念式典第二部では、小川同窓会長のご尽力により昭和五十年卒業生、作家・横山秀夫様、「先生でも生徒でもない私」という演題でご講演いただきました。生徒が人生を歩んでいくの有意義な示唆をいただきました。この紙面をお借りして、皆様から御礼を申し上げます。さらに、記念誌の編集も既に始まっております。多くの旧教職員・編集委員会の先生方、記念誌発行のご尽力をいただきました。有難うございます。私自身も赴任した学校において、歴史と伝統のある本校で記念式典・記念行事に携わることができましたことは、大きな喜びでございます。

先日、二学年の生徒と沖繩へ修学旅行に行つてまいりました。私も含めて先生方の中には、バスや飛行機に乗降する集合・解散の時間を守ることに危惧する向きがありました。結果は非常にスムーズに集合解散が実施できました。ある教員が、本校生徒は「やればできる」ということが分かったと言っているのを耳にしました。

校訓の「自主・誠実・明朗」を基軸にして、時代や社会の変化に柔軟に対応できる生徒を教職員一丸となって育ててまいります。同窓会の皆様には、これまでにも増してご支援をいただきますようお願い申し上げます。

同窓会活動報告

やよい会全国大会

ホテルリッツフイールド仙台にて開催
現地三名、役員一〇名が参加

十九年五月二十六日(土) 東京から九十分程で十一時すぎ仙台に到着した一行は駅前で見物で賑やかな商店街などに気を取られ、少々戸惑ったが、ホテルに着いた。

参加者の自己紹介を行い、一気に気持ちが融け合った所で、小川会長から同窓会の現況、あり方、方針、地方での開催の意義が述べられ、現地参加の会員方からも賛意を表された。

懇親会では、ムード溢れる綺麗な部屋で「仙台名産メニュー」として牛タン焼、笹蒲鉾、白石うめん、ずんだ餅等で満腹となった。

終了後は、現地の吉田恵子幹



仙台駅前ペDESTRIANデッキにて

事を中心に市内案内を願った。青葉山では、政宗公騎馬像、護国神社を参拝の後、瑞鳳殿(政宗公)・善応殿(綱宗公)・感

仙殿(忠宗公)という、桃山様式の威風を伝える豪華絢爛たる廟建築を合わせで見学することができた有意義な一日となった。



気持ちよく校歌を斉唱

ようこそ！杜の都仙台へ

久しぶりの校歌に感激

S 41年卒



吉田 恵子 (旧姓 吉田)

やよい会全国大会が仙台で開催されると伺い、皆様にお逢い出来る楽しみと少々の不安とで、当日を迎えました。でも同窓生とはとても素晴らしいですね。すぐに旧知の様にお話が弾み、和やかな雰囲気にとけこむ事が出来ました。校舎が立派に建替ったそうである昔の木造の旧校舎で、二階の板の隙間からゴミを落とした事や、裏門の近くのロッケ屋さん、氷水を食べに寄ったお店等、次々と思い出されなつかしさがこみあげて参りました。

又学校周辺には千駄木や谷中等歩いて楽しい所が多いそうで、是非ゆっくり訪ねてみたいと思いました。

私はもともと仙台人で三年間のみ東京に住んでいたのですが、「こちらで『この高校?』と聞かれ『都立向丘高校です』と答えると決まって『あー向ヶ丘遊園地の近くでしょ』と言われ続けて参りました。この地で校歌を歌えた事は、本当に感激でした。又声高らかに歌われました会長様始め役員様方の深い愛校心をお話の端々からも感じ、これがやよい会を大きく育てられた由縁であると思いました。この会の益々の御発展をご祈念申し上げますと共に、仙台をお訪ね下さいました事に心より感謝申し上げます。

仙台大会に参加して

S 61年卒



今井美代子 (旧姓 清水)

同窓会活動は高校を卒業した年以來二十一年ぶりで、仙台大会はどんな人達が来るのだろうと楽しみだつた。

当日は天候に恵まれ、仙台駅から地図を片手に開催場所のホテルリッツフイールド仙台まで歩いた。

参加者は十余名で私が最年少であったが、先輩方のいろいろな話を聞くことが出来、時間が経つのがアツという間に感じた。

大会の後、仙台在住の方が市内を案内してくださり、有意義なひとときであった。私は都合により日帰りでその日に帰つたが、次回は是非一泊したいと思う。

活動だより

都美術館の水墨画展へ出展

「不機嫌な海」昭和27年卒 大河内雄四郎 作

S29年卒

小池 祥次

先ずは向丘高校同窓会の継続、維持に努力されている皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

母校六十周年に向けて新たに名簿を作成されるの事に敬意を表します。

同封した写真の人物はいずれも五十年以上



も昔の向丘高校の同窓生です。

よく撮っていないのが残念ですが、左から、

小池祥次、岩木信二、堀之内一、大河内雄四郎、大西弘明、岡本章の六名で、大河内先輩が四期卒、他は六期卒で、三年ほど前の秋に先輩の水墨画が都美術館に出展されたときの写真です。題名は「不機嫌な海」です。

先輩は、年に数回あちこちで出展していますが、秋の都美術館には全員集合して、帰りに一杯やるのが楽しみです。

先輩は在学中も有名人でしたから当時の人なら皆知っているでしょう。

五十年前の先輩たちが、今でも付き合いを続けていることを、後輩たちに知って頂くのも、何か意義があることのように思えましたのでお便りさしあげました。

ご奉仕、本当にご苦労様ですが、がんばって下さい。

向丘高校第13期生

拡大クラス会ご報告

S36年卒

幹事一同(太宰研二、奥村誠、金子瓊子)

先日は、皆さんのご協力により、三十数年の空白を挟んで、久方ぶりのクラス会を曲がりなりに開催することができ有難うございました。駆け付けてくれました皆さんの話に加え、当日、都合がつかず欠席された方々の近況音信も披露され、懐かしさの中楽しい一時を過ごすことができたと思っております。

また、同学年の他クラスからも学年同窓幹事の田中正明氏をはじめ多数の応援参加があり、クラス会が盛り上がったこと深く感謝致して



元氣にお集まりいただけるよう、お体に気をつけてお過ごし下さい。

還暦同期会

S41年卒



尾道 郁代 (旧姓 大橋)

十一月十日還暦同期会をしました。いつもホテルの混んでいない夏を選んで同期会をしていたので今回は春から仏滅の土曜日を選んでこの日に決めました。奇しくも向丘高等学校の六十周年の式典の日と重なってしまいました。同期の青木恒雄さんのとり計らいで新宿のヒルトン東京で「あいにくの小雨の中、六十人余りの方が集り恩師も長田先生、菅野先生、小野先生がご参加いただきました。

平成十八年の同期会にも会っている人、久しぶりの人、卒業以来はじめてという人もいました。もう卒業して四十年以上にもなるのかと改めて思い返してみますが旧友達と話していると学生時代の気持ちに戻ってくるのですから不思議です。まだまだ現役で働く人、リタイヤする人、それぞれですがマスコミでよく言われている団塊の世代の大量退職年そのものです。

これからでもできるかぎり同期会を開いてゆきたいと思えます。我が期は谷嶋さんが事務局でやってくれるので集うことも定期的になっているのでとても有難いことです。

他の期も同期会が開けるようになると、同窓会も盛会になるのではないかと願っています。



古希同期会幹事募集!

昭和三十一年卒業生は今年四月一日で皆さん七十歳を超えま
した。
古希まで生き延びてこられた
あれやこれやを語り合う同期会
はいかがですか?
開催日時、会場などは未定で
すが、今度こそ、幹事をやって
みようという方を募集したいと
存じます。
楽しいプランをぜひお知らせ
ください。
連絡は左記まで
☆小川力洋
〒114-0012 北区田端新町
電話 一 二七七一
○三三三八九三一九七九二
FAX ○三三三八九三一九七九三
大勢のお申し出を総会日四月
二十日にお待ちいたしております。

第五回 昭和四十七年卒 同期会開催予定のお知らせ

五月二十四日(土) 場所未定
たくさんのご参加お待ちしております。
連絡先 都留みどり(旧姓 大原)
電話 ○四二一四九一一八七〇三

ひろば

時代の背景(その四)

終戦から十年



S31年卒
川端 春生
(旧姓 三橋)

やよい会の總會や定例の役員会などで、同窓の人たちに会うと、いつも高校時代の話に花が咲きます。青春を謳歌したあの頃が懐かしいのでしょうか。昨年、母校は六十周年を迎え、今年、私は七十歳になります。そこで、私が高校生の頃のことを図書館で調べました。一九五〇年(昭和二十五年)の国勢調査では日本の人口は、八千三百二十万人でした。昭和二十九年・八千八百二十九万人、そして、昭和三十年の国勢調査では、八千九百二十八万人、平均寿命は、男性は六十二・八歳、女性性は六十六・八歳でした。高校生の頃の人生設計は、多分この数字を元に考えていたと思います。信長が好んだ敦盛に、人間五十年、随分違ふものだな、と強く感じました。当時、文学青年気取りで、ヘルマンヘッセのデミアン、ロマンローランのチポリー家の人々、トルストイの戦争と平和、バルザックの谷間の百合とか、吉川英治の新書太閤記から島崎藤村の新生や夜明け前、有島武郎の或る女や夏目漱石の坊ちゃんなど、学校の勉強はそっこのので、読書三昧の日々でした。その頃に出版された主な書物には、阿川裕之の悪の遺産、石川達三の悪の愉しき、井上靖の風林火山、井伏鱒二の漂民宇三郎、梅崎春生のボロ

家の記録、大仏次郎の鞍馬天狗、川端康成のみづうみ、海音寺潮五郎の平将門、高見順の各駅停車、曾野綾子の遠来の客たち、永井荷風の浅草交響楽、中野重治のむらぎも、野村胡堂の銭形平次捕物控、林房雄の息子の縁談、三島由紀夫の潮騒、山本周五郎の樫の木は残った、吉川英治の新平家物語など、少し後から新進作家の石原慎太郎も含めて賑やかな文壇でした。

家にテレビやパソコンがなかった時代、時間があつて読書が好きになり、今でも生活の一部になっています。若い皆さん、本を読みましょう。

さて、眼を映画界に向けると、邦画では、君の名は一部・二部、地獄門、わが恋はリラの木陰に、健児の塔、君に捧げし命なりせば、にぎりえ、ひばり姫初夢道中、十代の性典、ひめゆりの塔、二等社員、煙突の見える場所、原爆の子、真空地帯、二十四の瞳、月よりの使者、七人の侍など。洋画では、アパッチ髯、ライムライト、地上最大のシヨウ、花咲ける騎士道、ローマの休日、紳士は金髪がお好き、不思議な国のアリス、クオヴアデイス、終着駅、シェーン、地上より永遠に、禁じられた遊び、ダンボ、黒い絨毯、三文オペラ、トリコの橋、スター誕生、暴力教室、シヨウほど素敵な商売はない等々、面白い映画が一杯でした。



昭和二十年に第二次大戦が終わってから十度十年、日本は伸び盛り。経済の発展とともに世界の文化が華やかに咲き乱れ始めた時代

でした。まだ、豊ではなかったけれども、自由と将来に対する漠然とした夢がもてる時代だったと思います。

感謝デーを狙って楽しむ温泉旅行

私の趣味、温泉旅行



S31年卒
三田 昌男

年々歳々花相似、歳々年々人不同という言葉漢文の詩で習いました。私の年代になりますと、教科を覚えていただいた先生方、同期の人、同窓会の役員であつた稲葉さん等、物故になつた人が増えてさびしい限りです。御冥福をお祈り致します。

私の趣味はへボ碁と旅行です。碁は永く楽しんでいますが上達しません。旅行は温泉が好きで大手旅行業者のパンフレットをもらい、自分で計画を立てて実行するのが楽しみです。土日はどこの旅館も満員ですが、平日ですと空いていて、サービスも良いので利用しております。中にはその地域の温泉の日や特定の旅館の感謝デーを利用すると安く泊まる事が出来ます。昨年の秋、友人の梅田君と鬼怒川温泉へ行きました。天気も良く、紅葉もまっさかりで、近くの龍王峡へ行き、つり橋や色々の滝が見られる遊歩道を二時間歩きました。旅館は大きな建物で展望の良い部屋をもらい、夜は溪谷をライトアップして溪谷がきれいに見えました。大風呂や露天風呂からも溪谷の水の流れや橋が見えます。食事は部屋食で品数も多くおいしくいただきました。これが日本旅館の醍醐味だと思います。今年も健康で又楽しい旅行がしたいと思っております。

世界遺産の旅

「エーゲ海」

アドリア海クルーズにて

S 32年卒

佐藤 元是



近頃のNHK文化センターで、月二回の「世界遺産講座」を受講しているが、時には現場を訪ねる海外ツアーに参加することもある。昨年はトパーズ号（ピースボート）に乗船してエーゲ海、アドリア海クルーズを楽しみながら、幾つかの世界遺産を巡った。

ギリシャの首都・アテネのユネスコ世界遺産のロゴマークにもなっているパルテノン神殿は、その守護神アテナを祀ったものだ。アクロポリスを上ると、その威容が姿を現わす。

中央が膨らんだ幾本もの白い大理石の柱が美しい。遠くから見てもまっすぐに見えるようにする、エンタシスと言われる技法である。紀元前四八〇年、それまでの神殿がペルシャ戦争によって破壊された後、同四四七年に再建が始まり、四三二年に完成したと言う。日本では縄文時代晩期にあたる。ヨーロッパの遺跡を廻ると、その先進性に圧倒されることが多い。ここに来たのは二度目だが、三十年を経た今も修復のためのクレーンがあつた。何時外されるのだろうか。

ドロブニク旧市街はクロアチアの最南端に位置する。十五、十六世紀には貿易都市として栄え、*「アドリア海の真珠」*と謳われた。大聖堂、修道院、旧宮殿、旧総督邸などが、約二kmのほぼ四角型をした城郭に囲まれている。回廊になっている城郭の上つて半周したが、ぎつしりと並んだオレンジ色の瓦屋根が

夕日に映えて綺麗だった。城郭内のレストランで夕食を済ませた後、閉店間際のみやげ物店に飛び込んで陶器製の壁掛けを買った。

クロアチアの隣国、ボスニア・ヘルツェゴヴィナのモスタルには、端正なアーチを持つ石造りの古橋がある。ドロブニクから、バスで四時間程の距離だ。出発してからの、砂浜も漁港もない風光明媚な海岸を走る一時間半の間に、バスは二度国境を通過した。国土がこの隣国によって分断されているのだ。十七世紀の大地震の際、復興支援の代償としてその一部を割譲したのだと言う。オスマン帝国時代の十六世紀半ばに建造され、民族・文化交流の正に、架け橋となつたこの石橋は、民族間の内戦によつて一九九三年に破壊された。しかし、二〇〇四年にユネスコの協力で修復され、その後は民族融和の象徴となつて

いる。
*「アドリア海の女王」*と称えられた、イタリヤのヴェネツィアでは、サン・マルコ広場、サン・マルコ寺院、ドゥカレ宮殿を見学し、ゴンドラに乗った。ヴェネツィアの中心であるサン・マルコ広場は、観光客で溢れていた。正面にサン・マルコ寺院、左右には時計塔と大鐘楼がある。外国の若い女性に頼んで、背景に寺院と鐘楼を入れた写真を撮つた。この寺院は聖マルコの遺骸を安置するため、九世紀初めに建てられたという。その後の再建・改修を経て、現在のロマネスク・ビザンチン建築の姿となつた。内部は薄暗かつたが、黄金のモザイク画で占められていた。ドゥカレレ宮殿は寺院に隣接している。九世紀に創建されたが、その後幾多の改修があり、十四、十六世紀に現在のゴシック様式になった。白や桃色の大理石のアーチが続く外観が美しい。一七九七年にナポレオン軍に敗れるまでの、十世紀にもなる共和国時代に総督邸兼政庁と

して使われた。現在は美術館になつているが、一番の見ものは二階の大評議室に描かれた、ヴェネツィア派の画家ティントレットの「天国」であろう。縦七m、横二十mの世界最大の油絵である。ヴェネツィアは、地盤沈下と地球温暖化の影響と考えられる海面上昇のため、しばしば高潮に襲われている。危機遺産になるのかも知れない。

現在ユネスコに登録されている世界遺産は八五一件にも及ぶ。これからも、世界遺産の旅は続くのだろうか。

チベット紀聞

S 36年卒

田中 正明



二十年程前から、海外旅行をするようになって。訪れた地域は北欧、中・東欧、南欧、アフリカ北東部、アフリカ北西部、南部アフリカ、小アジア、中央アジア、中国西部、同シルクロード路、同長江路、同東部、東南アジア、北東アジア、南米北西部、同中央部、同南東部などで小範囲にすぎないが、いつの場合にも訪れた国や都市で美しい自然や景観を目の当りにし、また優れた建造物や悠久の歴史を刻んだ史跡の場に身を置いて言い知れぬ感慨を覚えてきた。そこには様々な民族や種族が紡いできた営為があり、多様な文化や価値観が横溢しているのである。

加えて私が興味を覚えるのは、その地ならではの風俗や習慣、それに伴つた生活のスタイルがあることを知ることである。衣食住はもとより信仰や宗教、あるいは時間の流れや使い方をとつても、日本人である私には異質

な文化として映り、多様な文化や価値観が存在している（存在してきた）ことを改めて認識させられる。「当然のこと」と断じてしまえばそれまでのことであるが、私は「多文化」という語句を当てている。

昨年訪れた中国チベット自治区で得た感慨も、所謂カルチャーショックと言うのには十分過ぎるものであつた。中華人民共和国の国土は日本の二十六倍、チベット自治区はその八分の一という広大な面積を占めている。謹かに四川省の成都からラサ、区都ラサ、ラサから青海省の西寧に向かう全長二千キロメートルに及ぶ西蔵鉄道の車窓から得た見聞に過ぎないが、映じた印象はこれまでに訪れた地の地よりも強烈であつた。

チベット全土の平均海拔は、三千メートルを超えている。実際四千メートルを越える高所にも遊牧民の営みがあり、その手前の地までは裸麦の畑が続いていた。凍土地帯を含む一帯の住環境はいかばかりであろうか。世界の屋根と例えられるチベットは、一九七九年（それまでにラサの町を訪れることができた外国人の総数は千二百人という説もある）に外国人観光客に門戸を開くまで、長く神秘のベールに包まれていた。その間に同地では、政治・社会・文化の面で大きな変革が押し進められていた。刻んできた自立の歴史と独自の文化は一九四九年を境にして一変、一九五九年には聖俗の要であるダマイラマ十四世がインドに亡命するといふ苦渋の選択があり、一九八九年にも僧侶のデモに端を発した大規模な騒乱があり多数の犠牲者を出している。

二〇〇七年十月二十二日の新聞は、僧侶と治安当局者とが衝突したことを再び報じていた。チベット族（更に分化される）の生活と精神の抛り所が、チベット仏教にあるとは周知のことである。同地を訪れマニ車を手に寺院

や八角街を巡る数多くの人々、大地に我が身を投げ出し一心に祈り続ける巡礼者、死後は仏界に至ると説く蔓陀羅の絵図などを目の当りにして、その内実が些かも過大でないことを実感した。加えて置かれていた今日の状況を知り、彼の地のことどもが心を占めていたのである。



.....
国立新美術館を訪ねて

印象も新たに



S47年卒
 堀田 睦夫
 (旧姓 赤沼)

アムステルダム国立美術館の大改修に伴い、収蔵作品が海外に貸し出されフェルメールが見られると、この国立新美術館に行つてき

ました。

この国立新美術館、平成十九年一月オープンだと思のですが、企画が良いのか、行くのはこれで早二回目。立地も流行の東京ミッドタウンの近くで、絵を見る以外の楽しみも味わえます。フェルメール展と題されていますが、実際にはフェルメールの絵は「ミルクを注ぐ女」一枚のみで、あとはアムステルダム美術館所蔵の絵なのか、オランダを描いた絵で構成されていました。

小さい頃から絵を見るのが好きで、高校時代にも上野や竹橋には良く出かけていました。今回も順路に沿って見ていったわけですが、見進む内に初めての感覚に捕われました。絵は大変よく描けてます。気になったのは絵の大きさ(サイズ)と描写物です。

絵のサイズはすべて小さく、大きいサイズの絵がありません。描写されているのは台所が多く、それ以外では玄関で挨拶をする人々を描いたものがありました。風景画はなかったように思えました。印象に残らず見落としのかもしれない。

襲われた感覚というのは、オランダという国は、大変貧しい国だったのではないかと、とても高価なものであったため、少ない絵の具で済むように絵が小さくなったのではないかと。家の中も薄暗く、その中でも明るい台所や玄関先の絵が多くなったのではないかと。国土も低地で、絵心をくすぐられる風景に乏しかったのではないかと、絵の良し悪しより、その時代の人々の生活観がずしっと襲ってきたように感じたものです。

なんとなく重い気持ちで外に出ましたが、外に出てしまえばそこは現代の六本木。それまでの気持ちにとつと別れを告げて、元氣良く昼食をとる店を探すのでありました。

我々、本当にいい時代に暮らしているなあ、と思ひながら。

.....
ヤングアダルトコーナーのお勧め



S47年卒
 佐々木郁子
 (旧姓 遠野)

この頃、本を読んでも、なかなかその世界に入り込めなくなりました。

どこに転居しても、まず図書館の位置を確認するほど、図書館をよく利用して読書を楽しんでいたのに、本の世界に入り込むのに時間がかかるようになってしまったのだ。少々が目が悪くなって、近くのものが見にくくなつたせいかもしれない。以前に比べて集中力がなくなってきたせいかもしれない。

でも習慣で、何か読みかけの本を持っていないと気が済まない。ただ図書館の本は貸出期限があるので、その期限内に読み終わらなくてはならないのがだんだん苦痛になってきた。まだ読み終わっていない本を返却するむなしさをたくさん味わった後、読む本を変えてみることを思いついた。今まで足を踏み入れたことのないヤングアダルトコーナーに入ってみたのだ。

結果を先に言えば、これは大正解だった。ヤングアダルトとは、中学・高校生をさしているようで、まだ大人ではないが、と言つて子供とも言い切れない読者のことだ。判断力は未熟であっても、充分大人と同じ感性を身につけていて悩みの深さも大人と変わらない。そんな彼らの要求に応える読み物を多く備えているのがヤングアダルトコーナーだ。子供のころに省略版で読んだ児童文学なども含

まれている。

かつて気に入っていて、何度も読んだ話が、省略版ではなく読みなおしてみると、また違った奥行のある話だとわかる。筋書きはわかっているのに、読み始めてすぐに話の中に入っていける。それでいて新しい発見が多く、読んでみて時間を損したと後悔するものはない。

反戦をテーマにしたものでも、「戦争はいけないことだ」と理想論を語るのではなく、身近にいた友達がいなくなるといった話で語りかける。「家なき子」だつてただのサクセスストーリーではなく、なかなか社会性を含んだ話だつたとわかる。

普通の大人向けの本に比べて字が比較的大きいのも私にはありがたい。もしも読む本に迷うことがあつたら、ぜひ一度ヤングアダルトコーナーをのぞいてみることをお勧めしたい。

一筆啓上

S41年卒 吉田 恵子

仙台は三月に入り寒い日が続いておりますが、六日開花という事で、待ち遠しく思われます。いつもお世話を頂き有難うございます。離れておりますので、「やよい」がなつかしい風を運んでくれています。この度は全国大会が仙台で開催されるそうで、とても嬉しく思っております。私にこの様な大役のお話で恐縮ですが、微力ながらお手伝いさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致します。時節柄どうぞご自愛下さいませ。役員各位

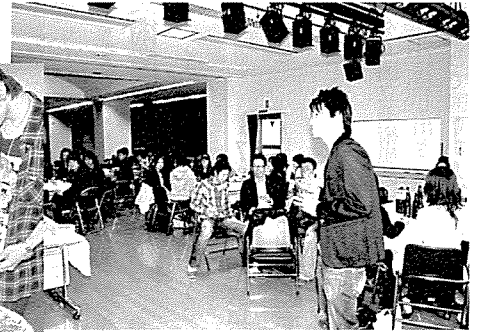
総会・懇親会模様



和気あいあいとお話し合い



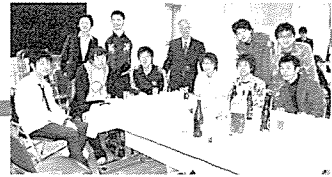
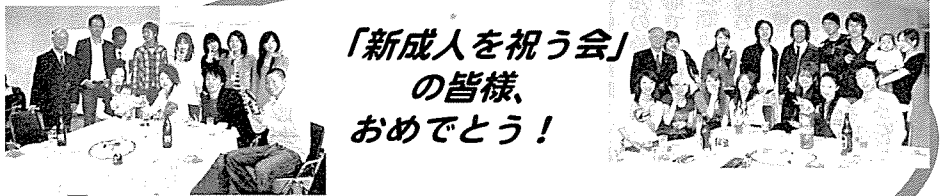
立派なお料理に舌つつみ



抽選会の説明をする平林幹事



H19・3卒のグループ



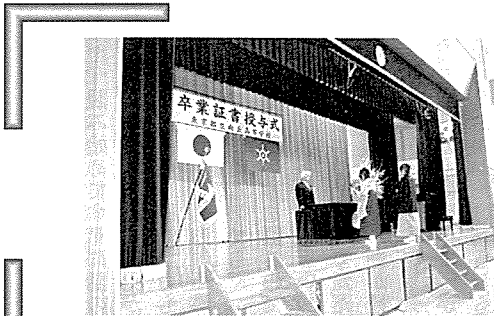
堂々と演奏するブラスバンド部



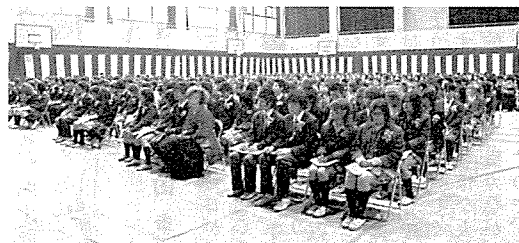
OBグループ



- 川端春生
- 山本越子
- 笹山幸子
- 佐々木郁子
- 桜井弘清
- 石山彼早子
- 長谷川三枝子
- 尾道郁代
- 杉浦重治
- 三田昌男
- 小川力洋



答辞を述べる卒業生代表



～平成19年3月卒業式～

仙台大会

19年5月26日(土)

ホテルリッチフィールド仙台



会議模様



桜井弘清
 田中 正明
 宮久保 渡
 吉田 恵子
 杉浦重治
 小川力洋
 笹山 幸子
 今井美代子(清水)
 山本越子(福永)
 佐々木郁子(遠野)
 太田 尚
 川端春生(三橋)
 三田昌男



伊達政宗公騎馬像前で

合同旅行会

19年9月8日(土)～9日(日)

草津温泉ニュー紅葉



参加者全員ホテル前

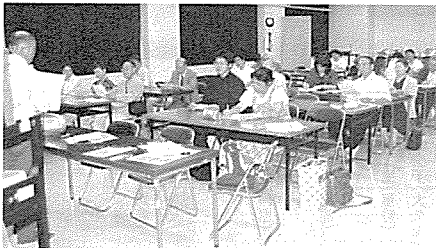


草津白根山湯釜を眺む



湯畑を背景にして

ホームカミングセミナー 懇親会



夜間中学の実態と成果 (見城慶和氏)



懇親会



参加者全員

創立60周年祝賀会



横山氏を囲んで
(前列右から2人目が横山氏)



生徒との対話 (給湯所にて)



勇ましい和太鼓の演技

寄付者・会費納入者一覧

平成19年度中に寄付金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)
尚、3,000円以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。
ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。
尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(20年2月20日現在)

寄付者名一覧

- ◆旧教職員
板井 哲夫
橋本 力
- ◆S24年卒
宮下 明子(小野)
- ◆S25年卒
東雲 佳子(田川)
- ◆S26年卒
岡村嘉代子(大田)
- ◆S27年卒
佐藤 陽子
関岡 節子(東野)
- ◆S28年卒
松尾 一郎
- ◆S29年卒
中西多恵子(山田)
- ◆S30年卒
橋田美智子(山口)
- ◆S31年卒
伊藤美知子(橋)
- ◆S32年卒
川端 春生(三橋)
- ◆S33年卒
小柴美江(大塚)
- ◆S34年卒
坂戸裕美子(田中)
- ◆S35年卒
佐藤 令子(安藤)
- ◆S36年卒
沼田 敬二
- ◆S37年卒
三田 昌男
- ◆S38年卒
山本 越子(福永)
- ◆S39年卒
金沢 英夫
- ◆S40年卒
北沢満里子
- ◆S41年卒
櫻井 弘清
- ◆S42年卒
石山 彼早子(佐伯)
- ◆S43年卒
古林 徹
- ◆S44年卒
立花 玲子(古川)
- ◆S45年卒
田中ケイ子(宿輪)
- ◆S46年卒
土橋 節子
- ◆S47年卒
永田 正博
- ◆S48年卒
五十嵐光俊
- ◆S49年卒
江藤 鉄兵
- ◆S50年卒
岩井 和子(大野)
- ◆S51年卒
金子 瓊子(内藤)
- ◆S52年卒
久保田昌雄
- ◆S53年卒
太宰 研二
- ◆S54年卒
田中 正明
- ◆S55年卒
松岡 宏道
- ◆S56年卒
宮下紀恵子
- ◆S57年卒
飯山千枝子(萩原)
- ◆S58年卒
湯浅美保子(奈良)
- ◆S59年卒
組橋 正子
- ◆S60年卒
杉浦 重治
- ◆S61年卒
高橋 重雄
- ◆S62年卒
鳥飼 重和
- ◆S63年卒
浅田 豊子(青山)
- ◆S64年卒
尾道 郁代(大橋)
- ◆S65年卒
長谷川三枝子(原)
- ◆S66年卒
福島 宏紀
- ◆S67年卒
吉田 恵子
- ◆S68年卒
塩崎 健人
- ◆S69年卒
鈴木 裕司
- ◆S70年卒
皆川 和実
- ◆S71年卒
井手 章子(丹沢)
- ◆S72年卒
榎本 裕子(高橋)
- ◆S73年卒
鈴木 幹夫
- ◆S74年卒
山邊 光久
- ◆S75年卒
金澤 信子
- ◆S76年卒
深川 渡
- ◆S77年卒
宮久保 波
- ◆S78年卒
恩村 一郎
- ◆S79年卒
笹山 幸子
- ◆S80年卒
佐々木郁子(遠野)
- ◆S81年卒
孕石 久枝(和田)
- ◆S82年卒
飯越 光子
- ◆S83年卒
須賀 福子(牧野)
- ◆S84年卒
本多 和子(園分)
- ◆S85年卒
松岡 昇
- ◆S86年卒
高橋 敬子
- ◆S87年卒
太田 尚
- ◆S88年卒
長岡美智子(近藤)
- ◆S89年卒
門馬 宏子
- ◆S90年卒
佐藤 光久
- ◆S91年卒
松尾 佳子
- ◆S92年卒
旗野 敏弘
- ◆S93年卒
今井美代子(清水)
- ◆S94年卒
高橋 康隆
- ◆S95年卒
梅澤 太陽
- ◆S96年卒
糸岡 達也
- ◆S97年卒
糸岡 紗央里(三橋)
- ◆S98年卒
松岡 由樹
- ◆S99年卒
山邊 光久
- ◆S100年卒
高木 芳江(高木)
- ◆S101年卒
堀田 恵津(山田)
- ◆S102年卒
山田 淑味(武長)
- ◆S103年卒
小田切成江(小林)
- ◆S104年卒
恩村 敦子(関)
- ◆S105年卒
本多美代子(今井)
- ◆S106年卒
増田ヨシイ(小林)
- ◆S107年卒
鎌田 美子(佐々木)
- ◆S108年卒
安土 靖子(川崎)
- ◆S109年卒
大井 弘子(市川)
- ◆S110年卒
太田 きよ(太田)
- ◆S111年卒
幸田 俊子(岩田)
- ◆S112年卒
小林美恵子(伊)
- ◆S113年卒
酒井美代子
- ◆S114年卒
嶋内 衣子(玉井)
- ◆S115年卒
高橋 清子
- ◆S116年卒
津雲 貞子(松田)
- ◆S117年卒
長谷川千代(中沢)
- ◆S118年卒
舟橋 和子(荒川)
- ◆S119年卒
渡部 路子(岩崎)
- ◆S120年卒
岩松 英子(塚田)
- ◆S121年卒
内山 昂子(豊田)
- ◆S122年卒
川井恵美子(酒井)
- ◆S123年卒
久保田慶子(佐々木)
- ◆S124年卒
黒川 淑洋
- ◆S125年卒
小林 恰子(足立)
- ◆S126年卒
澤谷 裕子(角田)
- ◆S127年卒
霜田 恒彰
- ◆S128年卒
鈴木 梅代(山本)
- ◆S129年卒
早船セツ子
- ◆S130年卒
堀 満彦
- ◆S131年卒
荒木 彩生(三井)
- ◆S132年卒
稲垣 治重
- ◆S133年卒
金子 節子(渡辺)
- ◆S134年卒
榎島恵津子(佐野)
- ◆S135年卒
佐々木佑介
- ◆S136年卒
佐武 和代(芝)
- ◆S137年卒
篠崎 健次
- ◆S138年卒
照沼 和子(島田)
- ◆S139年卒
百野 啓介
- ◆S140年卒
星 直正
- ◆S141年卒
山内 治雄
- ◆S142年卒
井上 雅子(中村)
- ◆S143年卒
大竹 行子(吉栗)
- ◆S144年卒
清水美江子(渡辺)
- ◆S145年卒
棚瀬 妙子(佐藤)
- ◆S146年卒
長縄 信孝
- ◆S147年卒
服部 依子(星出)
- ◆S148年卒
広江 英一
- ◆S149年卒
三浦 洋子
- ◆S150年卒
赤松利久子(岩本)
- ◆S151年卒
池野 通(高橋)
- ◆S152年卒
石山 登
- ◆S153年卒
居村 正久
- ◆S154年卒
大江 昭子(渡辺)
- ◆S155年卒
柏 やよい(保田)
- ◆S156年卒
佐藤 佐江子(森)
- ◆S157年卒
佐藤 英治
- ◆S158年卒
水津 信雄
- ◆S159年卒
塚本トメ子(佐藤)
- ◆S160年卒
中島 徹
- ◆S161年卒
姫野千代子(近藤)
- ◆S162年卒
深瀬 恒矣
- ◆S163年卒
松居 晃
- ◆S164年卒
山崎 久磨
- ◆S165年卒
山田 和子(釘宮)
- ◆S166年卒
稲田 豊
- ◆S167年卒
鶴塚 美代(大竹)
- ◆S168年卒
大津 紀男
- ◆S169年卒
河野 友磨
- ◆S170年卒
小西 圭子(城)
- ◆S171年卒
坂本 慶子(本田)
- ◆S172年卒
佐藤 元是
- ◆S173年卒
筒井喜巳子(萩田)
- ◆S174年卒
中河 健男
- ◆S175年卒
植山榮次郎
- ◆S176年卒
乙部たみ子(新名)
- ◆S177年卒
川合美津子(堀切)
- ◆S178年卒
郡司 茂代
- ◆S179年卒
若口 雅子
- ◆S180年卒
鈴木 紀(菅原)
- ◆S181年卒
壬生田紀夫(三浦)
- ◆S182年卒
池辺 弥生(星野)
- ◆S183年卒
大久保圭子(大久保)
- ◆S184年卒
清水 幸明
- ◆S185年卒
難波田久子(土井)
- ◆S186年卒
橋本 寿子(岩本)
- ◆S187年卒
三浦みさ子(江島)
- ◆S188年卒
山本 一智(高橋)
- ◆S189年卒
石黒 寿子(八木)
- ◆S190年卒
伊藤 恒雄
- ◆S191年卒
海蓋 陸治
- ◆S192年卒
奥村 誠
- ◆S193年卒
河野 洋子
- ◆S194年卒
塚原 元昭
- ◆S195年卒
寺尾ヒロミ
- ◆S196年卒
真塩 共栄
- ◆S197年卒
三野 洋子(前原)
- ◆S198年卒
浅原婦美子(野原)
- ◆S199年卒
阿部多恵子(随原)
- ◆S200年卒
板谷 勝
- ◆S201年卒
今村 春江(星)
- ◆S202年卒
小黒 由明
- ◆S203年卒
片岡 邦枝
- ◆S204年卒
勝田久美子(戸波)
- ◆S205年卒
河原 正史
- ◆S206年卒
酒井貴世子(野辺)
- ◆S207年卒
佐谷戸 実
- ◆S208年卒
鈴木多可子(浅賀)
- ◆S209年卒
坪井 節子(青木)
- ◆S210年卒
永井 良子(樋口)
- ◆S211年卒
南方 洋子(富田)
- ◆S212年卒
山住 咲子(福島)
- ◆S213年卒
渡辺 光寛
- ◆S214年卒
谷口 昭夫
- ◆S215年卒
羽柴 美枝(五十嵐)
- ◆S216年卒
大野美音子(宮下)
- ◆S217年卒
木内 明代(田口)
- ◆S218年卒
北田 照子(大山)
- ◆S219年卒
庄司 和美(赤塚)
- ◆S220年卒
田中 幸子(杉田)
- ◆S221年卒
能州 慶次
- ◆S222年卒
藤尾 誠
- ◆S223年卒
秋山 浩一
- ◆S224年卒
井上 芳子
- ◆S225年卒
岩城 公司
- ◆S226年卒
小山由記子(吉田)
- ◆S227年卒
古川 治子(加藤)
- ◆S228年卒
吉田 道子(白井)
- ◆S229年卒
稲葉 美子(田中)
- ◆S230年卒
井村 忠
- ◆S231年卒
鶴岡 俊子
- ◆S232年卒
大村美登里(田)
- ◆S233年卒
戸田 光子(土井)
- ◆S234年卒
東山 敏子(黒沢)
- ◆S235年卒
溝口 進一
- ◆S236年卒
山辺 恭司
- ◆S237年卒
横田代志子(三谷)
- ◆S238年卒
池ノ上政雄 吉
- ◆S239年卒
植原美年子(川田)
- ◆S240年卒
原 真理(根岸)
- ◆S241年卒
深沢 信一
- ◆S242年卒
正田 京子(菅谷)
- ◆S243年卒
飯野 正則
- ◆S244年卒
大熊 雅男
- ◆S245年卒
加藤 篤子(内藤)
- ◆S246年卒
松上 恵一
- ◆S247年卒
石井 洋子
- ◆S248年卒
田中 孝子(中田)
- ◆S249年卒
玉木 英子(清水)
- ◆S250年卒
福尾 聰恵(吉田)
- ◆S251年卒
宮浦美恵子(北上)
- ◆S252年卒
高橋 博史
- ◆S253年卒
高橋 美法
- ◆S254年卒
竹村 祥子
- ◆S255年卒
金澤 史子
- ◆S256年卒
竹川 秀馬
- ◆S257年卒
山口多鶴子
- ◆S258年卒
高橋 淳(高野)
- ◆S259年卒
藤田美智子(関口)
- ◆S260年卒
今出 隆久
- ◆S261年卒
川島 清次
- ◆S262年卒
辻 薫
- ◆S263年卒
三好 陽子
- ◆S264年卒
横山久美子
- ◆S265年卒
大西 絹子(田口)
- ◆S266年卒
永井すま子
- ◆S267年卒
渡辺 隼子(木村)
- ◆S268年卒
中沢香代子(近間)
- ◆S269年卒
中野 仁史
- ◆S270年卒
武智 弘英
- ◆S271年卒
梓澤 秀昭
- ◆S272年卒
木下 玲子(川井)
- ◆S273年卒
佐藤美絵子
- ◆S274年卒
矢野 宏明
- ◆S275年卒
宇佐美由美子(藤井)
- ◆S276年卒
阿部 直子(雨宮)

運営費にご協力をお願い
会活動活性化に向け、ご提案・ご寄付・年会費等
のお振込み方、ご協力をお願い申し上げます。

やよい俳壇

檜 紀代選

(S 31 佐藤令子 旧姓 安藤)

ふたりして手のひらほどの熊手買ふ

S 27 森重竜郎(龍彦)

春風や願ひの絵馬の多国籍

S 27 小松原錦子(旧姓 吉沢)

白酒に夜更けて衛士のさざめごと

S 30 安河内恵美

(旧姓 鷹見恵美子)

うたたねの幸分かち合ひ炬燵ねこ

S 31 梶田仍美(旧姓 坂口)

若妻の悲鳴が好きでひきがえる

S 31 麻生やよひ

(山本越子 旧姓 福永)

檜 紀代吟

高価なる漢方薬より寒卵

ほどほどを知らぬ咲きやう紅椿

☆俳句の世界へのお誘い

俳句のお仲間になりませんか？
最近の大きな話題は「地球の温暖化」私たちの記憶に残っている日本のゆつたりとした四季の変化を句に詠んでおくのも大人の義務かもしれません。降雪量がだんだん少なくなり、湖が凍らない。夏は届いたことのない数字まで気温が上昇する。
エコは大切。マイバッグやマイ箸、水道の蛇口をこまめに締める

のも省エネですが、なぜ省エネに

気を配らなければならないか。それは豊かな大自然が破壊するから。俳句を作るときそんなことまで？とお思いでしょうが、気がつく

と子供ころの夕暮の切なさが思い出されたりして、そうだ、あんな雰囲気二度と出会えなくな

らないように温暖化を少しでも遅らせよう、と思いついて下さい。で、俳句のお仲間になりませんか？お待ち致しております。

連絡先 麻生やよひ
TEL/FAX 〇三三三三三二一七四八九
e-mail etsutra@krabiglobe.ne.jp

合同旅行会会員募集

日時 二十年九月六日(土) 七日(日)

場所 湯西川温泉 平家本陣(平家落人の郷)

参加費 一〇,〇〇〇円

一泊四食付(但しオプシヨンを除く)

集合 JR田端駅北口前

午前七時半集合・発送迎バス利用

十五名以上二十八名まで

先着順にて受付けます。八月十五日までに会費をお振込下さい。

郵便振替番号 〇〇二〇九五三八五二一三

振替者名 都立向丘高校同窓会(通信欄に旅行代金と記すこと)

※少人数の時は、池袋発乗合バス利用に変更となります。

来年度、七十歳、六十歳、五十歳、四十歳、三十歳になる期の同窓会の皆さん！ 同期会を開催しませんか。同窓会でお手伝いいたします。その期の宛名シールと通信費を補助致します。

開催したいと思っっている方は、四月二十日の総会に出席ください。その場で相談したいと思えます。お誘い合わせのうえ、御参加ください。(ただし、総会において、その期の代表者が不参加の場合、後日の受付はご遠慮願います) 担当 会計 尾道郁代

同窓会役員名簿

平成19(2007)年2月20日現在

役職	氏名 (旧姓)	卒年	〒 住所	電話番号
顧問	佐々木 益男	歴代校長		
〃	新城 昇	〃		
〃	池永 武昭	〃		
〃	北村 透	〃		
〃	北村 正生	〃		
〃	石井 隆夫	〃		
名誉会長	戸谷 賢司	校長		
会長	小川 力洋	31年卒		
副会長	田浦 昌重	31年卒		
〃	杉重 治	40年卒		
会計	尾道 郁代 (大橋)	41年卒		
〃	長谷川 三枝子 (原)	41年卒		
書記	山本 越子 (福永)	31年卒		
〃	笹山 幸子	46年卒		
〃	佐々木 郁子 (遠野)	47年卒		
会計監査	石山 彼早子 (佐伯)	34年卒		
〃	寺村 光司	37年卒		
幹事長	櫻井 弘清	32年卒		
西日本地区幹事	高尾 和子 (杉本)	31年卒		
新潟地区幹事	小山 ゆき子 (吉田)	40年卒		
仙台地区幹事	吉田 恵子 (吉田)	41年卒		
事務局	藤原 成憲	副校長		
相談役	川端 春生 (三橋)	31年卒		
〃	田中 正明	36年卒		
〃	千田 二仁江 (樋口)	59年卒		

【事業報告】

平成18年4月1日～平成19年3月31日

I 役員会(幹事会)

平成18年4月3日(月)
会計監査会・新成人呼び掛け準備会
16名参加 於 北区東田端地域振興室
平成18年5月13日(土) 総会反省慰労会・新潟大会の打合せ会 15名参加
於 北区東田端地域振興室
平成18年9月5日(火)
向陵祭出展に向けての打ち合せ会
9名参加 於 北区東田端地域振興室
平成18年12月7日(木)
やよい17号原稿集め・忘年会 12名参加
於 田端三島屋
平成19年1月17日(水) 新年顔合せ会・企画会議 11名参加
於 北区東田端地域振興室

II 総会・記念演奏会・母校6階ホール

平成18年4月23日(日)
母校吹奏楽部 19名出演
指揮 原田 亮先生
会員、保護者、近隣一般者100名程が参加、真面目な演奏で堪能した。

III 総会・懇親会・母校6階ホール

平成18年4月23日(日)
13:00からの総会には30名ほどの会員で審議された。
16:00からは平成18年3月卒業生の入会歓迎会として60名、平成16年3月卒業生の新成人を祝う会として70名程の参加があり、会報17号誌上写真提出のとおりで、初体験の賑わいだった。同窓会の存在を認識して頂いた。愛県ゲーム会で

は賞品を新成人会に一任したところ、5万円を高単価品5点で終了した。次年は小品でも大勢にわたる様を考えたい。

IV 研究活動(含全国大会)

平成18年4月11日(火)
新成人(平成16年3月卒業生)呼び掛け用宛名書会 5名参加
於 北区東田端地域振興室
平成18年5月27日(土)
新潟大会を開催 12名参加
於 新潟シティホテル
新潟大会懇親会 12名参加
於 割烹きらく
内容は会報17号誌上3頁に掲載
平成18年9月9日(土)～10日(日)
宿泊研修会 役員7名参加
於 奥日光湯元温泉おおりの山荘
平成18年9月23日(土)
向陵祭に参加
於 母校B棟4階視聴覚教室
PTA会場に同窓会コーナーを設営、故稲葉祐吉氏の遺作展・川端氏の敦煌展・小川氏の京都錦秋展・山本氏のエジプト展・田中氏の南米(ブラジル・アルゼンチン)展を行った。
平成18年9月24日(日)
ホームカミングセミナー・懇親会
27名参加 於 母校B棟4階視聴覚教室
「切らずに治すガン治療」
(財)日本原子力文化指定財団 派遣講師 河内清光先生
平成19年3月3日(土)
新成人となった平成17年3月卒業生に対し、当番監事に宛名書き(240名)を願った。
6名参加 於 北区東田端地域振興室

平成19年3月22日(木)
次年度新入生238名の入学説明会に小川会長が出席し、同伴保護者にも同窓会入会の同意を促した。

V 会報関係

平成18年12月7日(木) 企画会議
12名参加 於 北区東田端地域振興室
平成19年1月17日(水) 編集会議
11名参加 於 北区東田端地域振興室
平成19年2月20日(火)
印刷担当者に説明し、原稿引渡
於 小川事務所
平成19年2月27日(火) 初校正会
3名参加 於 小川事務所
平成19年3月3日(土) 二校正会
2名参加 於 小川事務所
平成19年3月9日(金)
3月12日卒業式予行会に間に合わすべく学校に350部納入した。その後、会員諸氏には、別表紙・振込用紙の作成等で手間取り、4月初旬のお届けとなった。12,000部作成し、国内送付数10,106部となった。
*現住所の変更で宛先不明での戻りが3～5%となりそうです。移動届をお願いします。

VI 渉外関係

平成18年4月7日(金)
母校入学式に小川会長が列席
於 母校体育館
平成18年5月19日(水)
PTA総会後の懇親会に小川会長が出席
於 文京グリーンコート
平成18年6月2日(金)
体育祭に小川会長が参観 於 六義園
平成18年9月23日(土)～24日(日)
向陵祭に役員多数参観 於 母校
平成19年3月13日(火)
母校卒業式に小川会長が列席
於 母校体育館
平成19年3月13日(火)
卒業生を祝う会に小川会長が参加
於 メトロポリタンエンドモント

VII 振興助成

平成18年11月25日(土)
S45卒業生同期会呼び掛け240名に対し幹事宮久保渡氏に助成
平成18年12月16日(土)
S36年クラス会呼び掛け40名に対し幹事田中正明氏に助成

平成18年度会計報告及び平成19年度予算案

都立向丘高等学校同窓会
平成19年3月31日現在

Table with 3 columns: 18年度決算, 19年度予算, and sub-headers for 収入の部 and 支出の部. Rows include items like 入会金, 年会費, 総会懇親会費, etc.

Table with 3 columns: 18年度決算, 19年度予算, and sub-headers for 収入の部 and 支出の部. Rows include items like 全国大会関係費, 交通費, 通信印刷費, etc.

上記の通り収支報告申し上げます。
平成19年4月22日 同窓会会長 小川 力洋
会計 尾道 郁代 長谷川三枝子
監査の結果誤りの無いことを認めます。
平成19年4月1日 監査 石山彼早子 寺村 光司

訃報

- 石 章二郎 顧問・元校長 H17. 7. 4
浅野 靖子 S27卒 H19. 10. 19(享年73歳)
伊藤 よし子 S30卒
渡辺 幸子 S41卒 H18. 2. 24(享年58歳)
西 清 S42卒 H16. 2. 3(享年54歳)
白倉 一三 S52卒 H17. 11. 23(享年46歳)

心よりご冥福をお祈り申し上げます
ご報告のありました方のみをお知らせ
しています